

原田ゼミナール

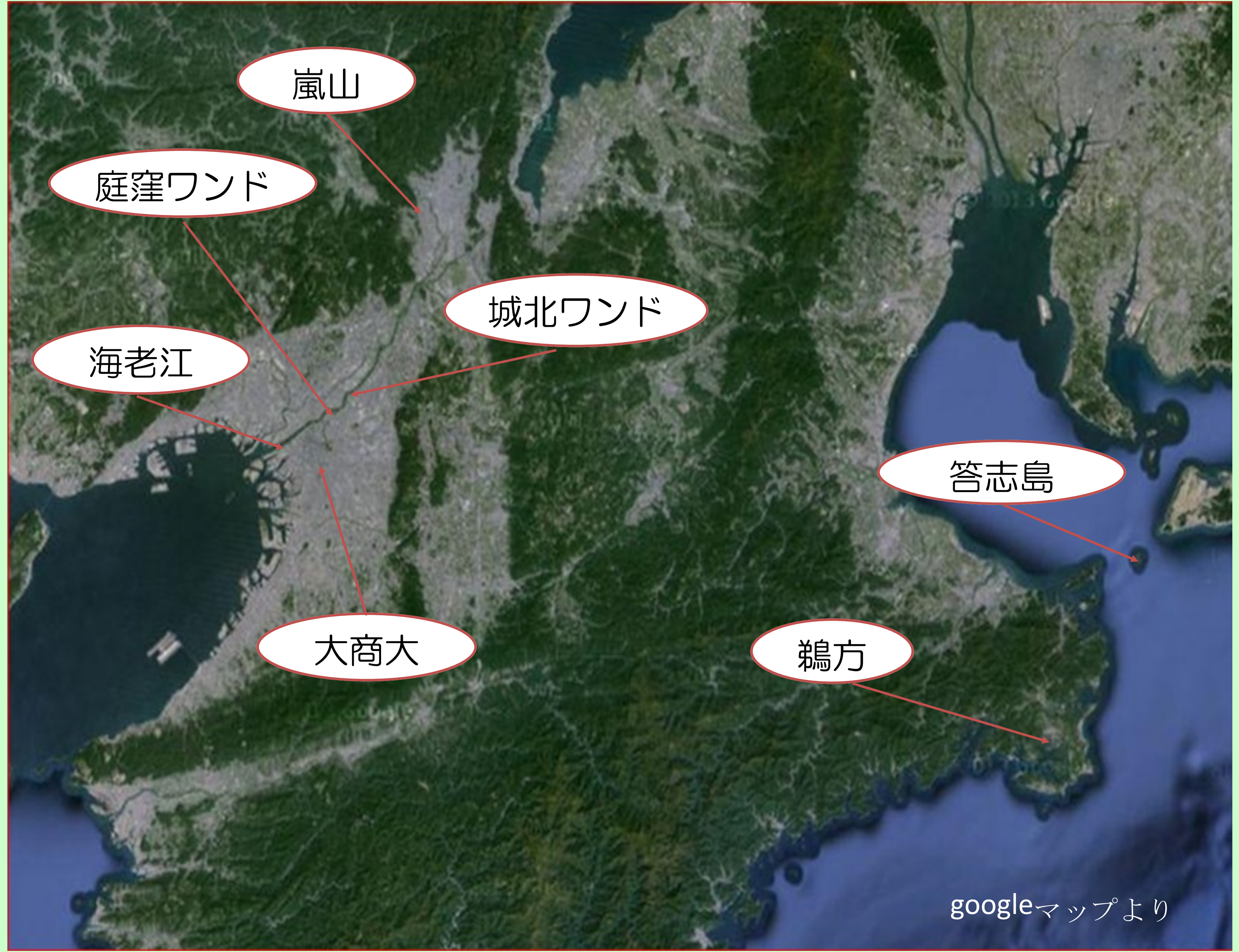
三重県鷺方・答志島での調査

2回生は今年三重県志摩市の鷺方・鳥羽市の答志島に行って、志摩建設事務所の方や漁師の方に海ゴミ・漂着ゴミについてヒアリングをしました。内容としてはゴミの種類や量、漁業などに及ぼす影響です。志摩市建設事務所は主に河川と海岸を管理していて、河川や海岸に漂着するゴミの種類は大きく分けて自然物と人工物であり、割合はだいたい8:2であり、ゴミが最も多い時期は、台風の多い7~9月です。ゴミはやがて沿岸部へ流れ着き船が出せなくなり、つまり漁ができなくなります。台風などの災害によっては、国からお金をもらえることがあるけれど、そのほとんどはゴミの回収によってなくなってしまうのが現状です。

・台風や潮の流れによって流れ着いた海ゴミ
流木やペットボトル、発泡スチロールなどが多く見られる。



出典：三重県 環境生活部大気水環境課



googleマップより

淀川での活動

原田ゼミナールでは淀川水系の海老江・庭窪ワンドで定期的にゴミ調査や清掃活動、絶滅危惧種(イタセンパラ)の保護、外来水生生物の駆除を行っています。このイタセンパラは城北ワンドに生息しております。なお、庭窪ワンドでは野生復帰(再導入)を目指しています。

海老江干潟での活動

毎月第2日曜日では淀川下流にある海老江でNPO法人ゴミゴ主催のゴミ拾いに参加しています。またこの活動は一般の方も参加されています。私たちは拾ったゴミの種類や量の調査も行っています。

庭窪ワンドでの活動

ここでは河川レンジャーの人達と共に環境保全活動や調査、絶滅危惧種であるイタセンパラの保護も行っています。さらに、生態系を壊す外来水生生物の駆除作業も行っています。

イタセンパラ

イタセンパラは淀川のシンボルフィッシュと呼ばれており、1974年に魚類初の天然記念物に指定され、全長7~8cmの淀川水系に生息している魚で、イシガイ科の淡水生二枚貝に産卵する。

イタセンパラの外敵としてブラックバスやブルーギルなどがいる。



出典：大阪府立環境農林水産総合研究所

ワンド

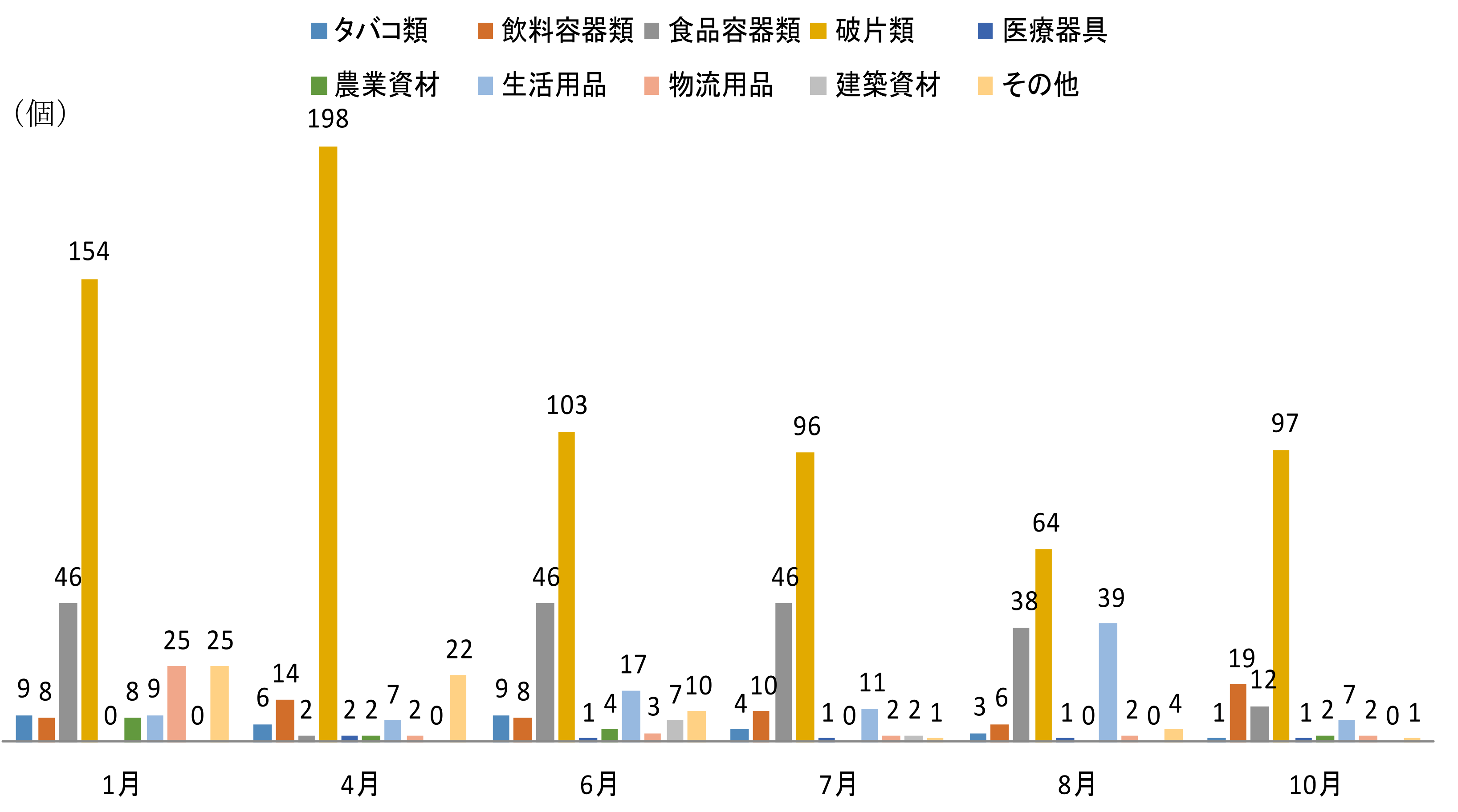


出典：国土交通省国土技術政策総合研究所

ワンドとは川の本流と繋がっており、河川構造物などに囲まれて池のようになっている地形のことである。そこは魚類などの水生生物に安定した棲み処にもなっており様々な植生が繁殖する場にもなっています。



2013年淀川・海老江の漂着ゴミの推移



*2月、3月、5月、9月、11月、12月は雨天中止のためデータなし

*淀川の阪神本線~国道2号線の淀川大橋間による。(直線約800m)

嵐山アンケート

京都嵐山では毎年11月~12月にかけて観光客を対象としたアンケート調査を行っています。

嵐山を流れる保津川(淀川の上流)ではゴミ問題が深刻化しており、地形が悪いため機械が入ることができず人力に頼るしか方法がありません。そこで、嵐山の環境保全のためにいくらかお金を支払ってもよいか(支払意志額)や一般人が嵐山の深刻なゴミ問題についてどれだけ知っているか、デポジット(預託金)制度の賛否などについての調査を毎年行い、各年度ごとで比較するためのデータを集めています。

デポジット制度とは使用した容器を返却するとお金が返ってくるシステムのことで、例えば、150円の飲み物に保証金(10円)を上乘せし、それを買った場所へ持っていくと保証金(10円)が返ってくるというシステムのことです。また、この制度は日本では離島やスタジアムなどの一定のまとまりある区域内での導入例があります。

アンケート調査の様子



嵐山の景観

